

# コミュニケーション

No.79

2010. 3月号  
Communication

特 集

## 「トラの干支展」 大特集 P2▶6

P7

移動動物の紹介他

P8

動物園の再整備にあたって

P9

平成21年ミルヴェあれこれ紹介／動物病院から

P10▶11

飼育レポート／飼育日誌から

P12

かたばた通信

アムールトラ  
(アシリ)



# トラの干支展 大特集



2010年は寅年。  
「雪の動物園」の開催中、  
干支の寅にちなんで  
トラに関する理解を深めていたぐため、  
手づくり解説パネルを設置し  
「トラの干支展」と題する特別展を行っています。  
今回は、この「トラの干支展」を大特集します。

園

## どうしてできた？

園長 小松守

ト

ラに縞模様ができたことを興味深く伝える  
中国のお話があります。

昔、ある地方にトラと竜(りゅう:龍)が住んでいました。

トランは人が増え、山を乱開発するのが許せませんでした。竜は、人が水を汚すのが気に入りました。

一方、トランは、どちらが強いかをいつも張り合っていました。トランは大声で吠え、大風を吹かせました。竜は怖くなり、岩山に身を隠しましたが、人は平気でした。竜は雷を起こし、大雨を降らせました。トランは身をくろめて岩山に逃げ込みましたが、人は笠をかぶり、タバコをふかして、やはり平気な顔をしていました。

今度は、人がトランと竜を草原に誘い、火を放ちました。火に追い立てられたトランと竜は逃げまどい、トランは山奥の森に、竜は遠い海に逃げ去りました。この火

事で負ったやけどの痕は、トランのあの縞模様に、また竜のガサガサのうろこ(鱗)になりました。

このお話は、縞模様の起源をおもしろく伝えていますが、これとは別に人と自然の関わりで現代社会にも通じる何かをもっています。人は特殊な文化を持ち、里で豊かに暮らしています。架空の動物の竜は別として、動物の王者トランを山奥の森に追い込み、苦しませています。自然や生き物を絶滅に追い込んでいる今の人々の営みと重なります。

トラン(動物)を見ながら、人も動物も自然に生かされ、共に生きる生き物であることに思いを巡らせてほしいものです。



## トラを特集するにあたり

今年の干支はトラン。「寅」の字は時を表し、「虎」は動物の姿形からつくれた象形文字です。また、トランの英語表記はTigerで、すばやく力強く動くことを意味するラテン語のtigris(チグリス)が語源です。メソポタミア文明発祥の地、チグリス・ユーフラテス川の、あのチグリスです。

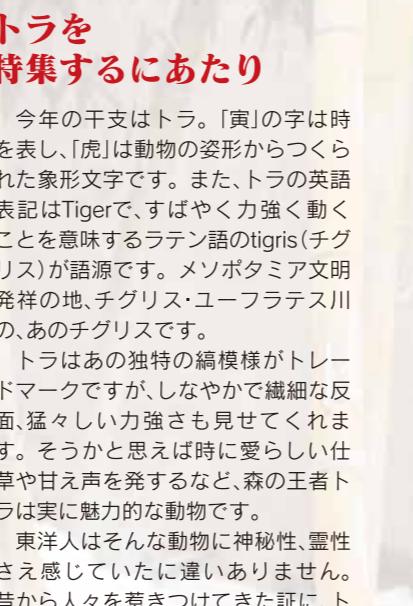
トランはあの独特的な縞模様がトレードマークですが、しなやかで繊細な反面、猛々しい力強さも見せてくれます。そうかと思えば時に愛らしい仕草や甘え声を発するなど、森の王者トランは実に魅力的な動物です。

東洋人はそんな動物に神秘性、靈性さえ感じていたに違いありません。昔から人々を惹きつけてきた証に、トランは実にたくさんの故事やことわざに登場します。「虎は千里往って、千里を還る」とありますが、我が子への強い思いを表現するたとえとして、またある時には遠距離をすばやく移動するエネルギーッシュな存在としてたとえられます。

人は折に触れ、自然や動物に生きる原点を探ることがあります。親子や家族の絆の希薄さが話題になり、また元気を失いかちな厳しい現代社会にあって、トラン年の今年、トランに学び、トランからパワーをもらいたいものです。

本号では大森山動物園で飼育しているアムールトランにスポットを当てた特集を企画しました。このことをご紹介させていただき、年頭のごあいさつといたします。人を魅了し続けてきたトランがこの地球上から姿を消してしまわないように、トランを少しでも知り、関心を高めていただけたら幸いです。

園長 小松 守

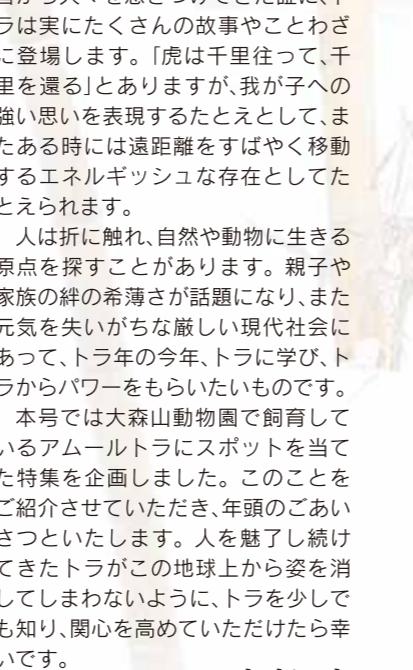


トランはそんな動物に神秘性、靈性さえ感じていたに違いありません。昔から人々を惹きつけてきた証に、トランは実にたくさんの故事やことわざに登場します。「虎は千里往って、千里を還る」とありますが、我が子への強い思いを表現するたとえとして、またある時には遠距離をすばやく移動するエネルギーッシュな存在としてたとえられます。

人は折に触れ、自然や動物に生きる原点を探ることがあります。親子や家族の絆の希薄さが話題になり、また元気を失いかちな厳しい現代社会にあって、トラン年の今年、トランに学び、トランからパワーをもらいたいものです。

本号では大森山動物園で飼育しているアムールトランにスポットを当てた特集を企画しました。このことをご紹介させていただき、年頭のごあいさつといたします。人を魅了し続けてきたトランがこの地球上から姿を消してしまわないように、トランを少しでも知り、関心を高めていただけたら幸いです。

園長 小松 守



## トラ ネコ目 ネコ科 ヒョウ属

トラン(虎、Panthera tigris)ネコ目(食肉目)ネコ科 ヒョウ属。学名のPantheraは、「完全な狩人」という意味で、ヒョウ属をあらわし、tigrisは、チグリス川に由来する「とても流れの速い川」を意味し、トランの敏捷性や力強さを表現しています。英語のtigerの語源にもなっています。



## 減少するトラン

かつてはアジア大陸に広く生息していましたが、この100年間で生息域の9割が失われ、生息数も10万頭から4千頭にまで減少しました。現在もトランの生息環境は悪化し、生息数は減少し続けており、絶滅の危機に瀕しています。

## 現在のトランの分布域

現在、極東ロシアなどにアムールトラン、インド大陸などにベンガルトラン、東南アジアにはインドシナトラン、マレートラン、スマトラ半島にはスマトラトランが生息しています。(中国南部のアモイトランは、近年の確認情報なし。) 各国のトランの生息地は、ほとんど相互につながりがなく分断された形で、将来的にトランの種の存続は厳しい状況にあります。



## トランの亜種

アムールトラン	Panthera tigris altaica
ベンガルトラン	Panthera tigris tigris
インドシナトラン	Panthera tigris corbetti
マレートラン	Panthera tigris jackson
スマトラトラン	Panthera tigris sumatrae

(注)カスピトラン、バリトラン、ジャワトランは絶滅、アモイトランは近年情報なし。

## ●日本で飼育中のトランは3種類



アムールトラン

ベンガルトラン

スマトラトラン

## 生態と行動

森林や湿地などに生息し、群は作らず、繁殖期以外は単独生活をします。広大な縛張りを形成し、縛張りを歩き回って獲物を探します。一晩の狩りで10~20kmを歩きますが、成功率は10回に1回程度。好んで水に入り、水辺で獲物を狙うこともあります。



トラは巣穴で仔を産み育てます

主にシカ、イノシシなどを捕食しますが、時に昆虫、果実、種子も食べ、大型獣の仔や家畜、人間を襲うこともあります。茂みなどに隠れて獲物に忍び寄り、近距離から跳びついて仕留めます。身体の縞模様は、草叢などに溶け込み、輪郭をぼかすカムフラージュ効果があります。



巣穴から出た親子

## 繁殖

南方では周年繁殖しますが、北方亜種は11月から4月に繁殖します。妊娠期間は100日前後で、1回に2~4頭の仔を産みます。授乳期間は4か月前後で、母親のみで仔を育てます。仔は数週間で巣穴から出て、2才頃まで母親と一緒に過ごします。この頃までに仔の半数は命を落とし、オスが仔を殺すこともあります。生後3~4年で性成熟し、寿命は約15~20年ほどです。



よく水浴をします

兄弟や母親とのじゃれあいから狩りの技術を学びます

## 大森山動物園のトラン飼育歴

大森山動物園では、現在アムールトランを展示中ですが、1973年から2005年までベンガルトランがいたのをご存じでしたか?



2

### ●ベンガルトラン

1973/10/22	オス「ミドリ」	当歳	動物商より購入	出身:到津動物園
1974/ 4/23	オス「トラオ」	1歳	動物商より購入	出身:長野須坂市動物園
1977/ 3/28	オス3頭、メス2頭		繁殖(トラオ×ミドリ)	
1977/ 3/29	オス3頭、メス2頭		死亡	
1977/ 7/28	オス2頭、メス1頭		繁殖(トラオ×ミドリ)	
1977/ 8/10	オス1頭、メス1頭		死亡	
1977/ 9/30	オス1頭	動物商へ転出		
1978/ 4/21	オス3頭、メス2頭		繁殖(トラオ×ミドリ)	
1978/ 7/22	オス2頭、メス1頭		死亡	
1978/ 8/18	オス1頭、メス1頭		動物商へ転出	
1979/ 4/6	オス2頭、メス1頭		繁殖(トラオ×ミドリ)	
1979/ 5/28	オス2頭、メス1頭		動物商へ転出	
1979/ 8/12	オス1頭、メス1頭		繁殖(トラオ×ミドリ)	
1979/10/23	オス1頭、メス1頭		動物商へ転出	
1981/ 3/9	メス2頭	繁殖(トラオ×ミドリ)		
1981/ 5/14	メス2頭	動物商へ転出		
1982/11/8	メス「ラン」	繁殖(トラオ×ミドリ)		
1983/10/31	メス「ミドリ」	動物商へ転出		
1986/ 8/21	不明3頭	繁殖(トラオ×ラン)		
1986/ 8/24	不明3頭	死亡		
1987/10/11	オス1頭、メス2頭		繁殖(トラオ×ラン)	
1989/ 3/29	オス1頭、メス2頭		動物商へ転出	
1989/ 3/29	オス「寅次郎」		動物商より購入	
1989/ 6/29	オス「トラオ」		動物商へ転出	
1989/11/30	メス「マドンナ」		神戸市立王子動物園より転入	
1993/11/19	オス「ヒロシ」、メス「サクラ」		繁殖(寅次郎×マドンナ)	
1994/ 6/12	「マドンナ」		神戸市立王子動物園より寄贈扱いとなる	
1995/ 5/30	「ヒロシ」、「サクラ」		到津動物園へ転出(BL)	
1995/11/5	オス1頭、メス1頭		繁殖(寅次郎×マドンナ)	
1996/ 1/27	「ヒロシ」(到津動物園)		B L契約解除	
1996/ 5/10	オス1頭、メス1頭		動物商へ転出	
1998/ 7/13	サクラ(到津動物園)		B L契約解除	
2004/ 3/15	「寅次郎」	死亡(16歳)		
2006/ 9/14	「マドンナ」	死亡(18歳)		

### ●アムールトラン

2005/ 3/12	オス「ウイッキー」	富士自然動物公園より購入
2007/ 6/8	メス「アシリ」	多摩動物公園より転入(B L)
2008/ 3/6	メス2頭「アルル」「ミルル」	繁殖(ウイッキー×アシリ)
2009/ 6/18	※ミルルはB L契約により多摩動物公園所有 「アルル」	広島市安佐動物公園へ転出(B L)

### BL:ブリーディングローン

ブリーディングローン(BL)とは、繁殖を目的とした動物の貸し借りのことです。生まれた子供の所有権は、契約時にあらかじめ決めてあります。

## ベンガルトランとは？

国内の動物園で飼育されている頭数は96頭(2007年JAZAより)、野生下での生息数は約3,500頭(1999年EEPまとめより)です。



生息域:インド南部~

ネパール、アッサムに分布

1930年にはインドだけに4万頭は生息していたという推定があります。しかし、その後の減り方は激しく、1969年にニューデリーで国際自然保護連合の総会が行われ、そこでニューデリー動物園の園長は「インドのトランは、わずかしか生き残っていない」と訴え、1972年からインド政府は「タイガープロジェクト」を組んで保護区を設けるなど、積極的な活動を開始しました。





# THE 婚活!! ~アムールトラの場合~

## まずははじめに 血統登録とは?

絶滅が心配されている稀少な野生動物を守るために、飼育されているこれらの動物を種類ごとに登録し、その血統(家系)を管理しています。人でいう戸籍のようなものです。

雑種を作らないように、また、遺伝的な偏りがないように注意しながら繁殖させ、その数を増やしていくことをするものです。

## トラの結婚までの道のり

1 それぞれの動物園が、自分のところで飼っているトラの数などをトラの調整者に毎年報告します。(結婚相手が必要な時は、そのお願いもします。)



2 繁殖検討委員会を開催し、各動物園からの報告をもとに血統に偏りが出ないようにトラのペア形成等について検討します。(プロフィールなどを見ながら仲介者がいい相手を選びます。)



3 繁殖検討委員会の助言等に基づいて、それぞれの動物園が契約を結びます。(結納)



4 アムールトラはとても稀少な種類なので、「種の保存法」に基づき、環境省と協議をしなければなりません。(國から結婚の許を受けなくてはなりません。)すべてをクリアし、めでたく結婚!!



## 「種の保存」現状と課題

2008年度末現在、日本国内ではオス29頭、メス28頭が飼育されていました。当時の最高齢は16歳でした。

また、2008年に生まれたアムールトラの子供は、秋田の2頭と釧路の3頭だけで、釧路の3頭のうち1頭は生後間もなく死んでしまいました。

## 生物学的な問題

国内では24園館がアムールトラを飼育していますが、オスだけ、またはメスだけで飼育しているところも少なくありません。また、ある特定のペアの子供だけが増えてしまうと、日本国内のアムールトラは遺伝的に偏ってしまいます。

## 物理的な問題

- アムールトラはネコ科動物の中でも最大であり、北方に生息しているため、暑い環境が苦手です。
- 大きくて危険な動物であるため、簡単に移動ができません。
- 施設が老朽化しているところもあります。

## アムールトラの繁殖記録



## 展示場デビューまでの裏日記

誕生日 2008年3月6日 父:ウツキー(1999年12月生) 母:アシリ(1999年3月生)

- 6月 9日 アシリ搬入(多摩動物公園より借り受け)。  
8月 7日 アシリ、ウツキーと柵越しに終日お見合い開始。  
9月 22日 アシリの発情の始まりを確認。9/27まで続く。  
10月 24日 ウツキーとアシリ、朝より同居を行う。同居後すぐ、アシリがウツキーに交尾を促す行動あり。以後、夕方まで20~30分間隔で交尾行動あり。  
11月 16日 アシリの発情の始まりを確認。数回の交尾を確認。10月の発情・交尾では妊娠しなかった。11/23まで続く。  
11月 23日 朝、交尾行動を1回確認。追尾行動を含め、以後は繁殖行動をまったく確認できず。発情終了および最終交尾日として確認。  
12月 8日 出産に備え、室内に産箱を設置する。アシリ、産箱の臭いを嗅ぎ、警戒しちゃう様子。餌は完食。※12月発情なし、妊娠の可能性大。  
1月 31日 産箱に敷き藁を入れる。特に気にする様子もなく箱の中に入り、横になり休んでいた。※1月も発情なし、妊娠はほぼ確定。  
3月 4日 出産予定日初日。アシリを終日室内で様子観察。特に行動変化等は見られない。餌食も良好。  
3月 5日 出産予定日2日目。アシリ、終日室内。呼吸も落ち着き、特に変化なし。  
3月 6日 出産予定日3日目。アシリを気分転換に朝9時から1時間程度外へ出す。  
出産 ゆっくりと歩きながら周囲を観察していた。室内収容後は産箱に入ったり、箱外

で横になっていた。夕方給餌時、餌を見せるとすぐに寄ってきて食すが、3~4切れ食した後、積極的な食いつきが見られなくなった。以後は産箱内で寝返りしたり、敷き藁を口でくわえたりなど、落ち着き無い行動が見られた。(軽い陣痛か?)便も少し軟らかく、量も少ない。

**★18:30、待望の第一子出産、続いて20:40第二子出産。** 11/23の最終交尾日から10月5日。

3月 7日 朝、モニターで授乳を確認。アシリが体勢を変えると、仔2頭も自力で動きながら乳頭の位置へ移動する。前の餌は唇頃になって全て食していた。夕方の給餌時は自ら寄ってきて餌をくわえ、産箱入り口付近で食していた。餌を食している以外は箱内で授乳。

3月 11日 授乳確認。アシリは産箱から出た様子なし。飲水確認、補給する。前日のニワトリ(プロイラー)は3羽給餌したうち1.5羽程度残餌。残餌回収および室内清掃のため、アシリを一時的に別室へ移動させる。スムーズに移動でき、部屋に戻した後も落ち着いて産箱に入る。

3月 14日 7:40、11:45の2回、仔の鳴き声確認。親子は終日室内でモニター観察。

3月 15日 8:55、14:30、16:30、17:00にそれぞれ仔の鳴き声を確認。元気な様子(2頭かは不明)。14:00に懐中電灯を使い柵越しに産箱内を覗く。授乳中の2頭を確認。腹部のふくらみなどを見る限り、十分な授乳がされていると思われる。体長は25~30cmか?

3月 18日 アシリを別室へ移動させ、仔の生存を肉眼で確認する。2頭が寄り添うように箱の角に固まっていた。

3月 21日 午前10時よりアシリを隔離し、仔2頭の体重測定・性別判定・健康診断を行う。2頭とともにメスと判明。目もほとんど開き、爪もしっかりした形の物が見られた。ヘルソや骨格、尻の状態も良好。獣医師の診断中、何度も仔が鳴くが、アシリは給餌されている餌を落ち着いて食し、気にしている様子なし。終了後、アシリを仔のもとへ戻した後も特に警戒することなく、仔の体を舐めたり、授乳したりの行動が確認された。その後は産箱から出ることなく授乳していた。

3月 22日 アシリ、食欲安定し、プロイラー3羽完食。食後キーパーに威嚇あり。モニターで授乳回数確認。仔、活発に動き回り。

3月 23日 アシリ、午前中ほどんど産箱から出ることなく過ごす。仔は四肢で起立し、数十cm歩行も確認するが、床が滑ってうまくいかず…。餌の食べ方を仔に見せるため、アシリが産箱内に餌を持って行き、仔の前で食していた。その間、仔2頭はアシリの様子をじっと見ていた。

# 飼育員が 伝授! エサのあげ方 トラの巻!

## 猛獸の間接飼育とは…

間接飼育とは、飼育員の安全を最優先にして、「動物と飼育者が同じ空間に入らざるに」飼育する方法です(主に肉食動物)。間接飼育では、人間が動物と一緒にになることはありません。これに対して、直接飼育とは、動物と飼育者が同じ空間に入つて飼育する方法です。(主に草食動物)。



外(展示場)  
ではエサをあげません。



閉園後、トラの部屋にエサを準備します。



トラ用通路の扉を引き上げます。すると、エサにかられてトラが部屋に入ります。



虎が部屋に入ったら、扉を閉めて終了です。トラがエサを食べている間、飼育員が外(展示場)の掃除をします。

# トラの 干支展 大特集

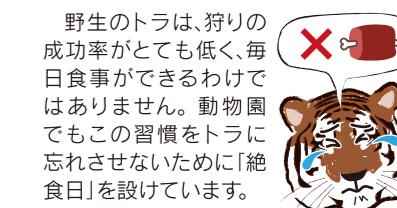
## 大森山 アムールトラ(♂)の献立表

### ●月・水・金・日曜日【馬肉3キロ+ニワトリ3羽】



頭・羽・内臓は取り除いてあります。

### ●火・土曜日【絶食】



野生のトラは、狩りの成功率がとても低く、毎日食事ができるわけではありません。動物園でもこの習慣をトラに忘れさせないために「絶食日」を設けています。

3月28日 朝、アシリが産箱から出てきてキーパーを激しく威嚇(ウツキーに会えないストレスか?)。その後は箱に戻り落ちていた。10時よりアシリを隔離し、仔2頭の2回目の体重測定、健康チェックを実施。順調な生育。終了後、アシリを部屋に戻しても、興奮することなく落ち着きあり。仔の体を舐めて、箱内で授乳を行なう。数回授乳確認。

3月30日 朝にウツキーを外へ出す作業時、アシリが興奮してキーパーを威嚇する。10時頃よりアシリを隔離し、室内水洗清掃および階段に大量の敷き藁を敷く(仔が落ちた場合の事故防止)。

4月 1日 仔の体重測定を実施(ミルル:4.65kg、アルル:4.6kg)。夕方には箱内を活発に歩き回り、日々出入り口より顔を出したらしい。数回授乳確認。仔は目も完全に開き、歩行もだいぶしつかりした様子。四肢をふんばり、上手に歩行ができる。

4月 2日 仔はほぼ完全な開眼と四肢をふんばった歩行があり、産箱内を活発に歩き回っていた。アシリのお腹の下に潜つたりしていた。

4月 3日 仔を目視で2頭確認、異常なし。仔2頭、朝に産箱出入り口より顔を覗かせていた。まだ箱から出た形跡はなし。授乳確認。アシリ、食欲良好。

4月 6日 仔はアシリの腹周辺に登つたりしながら、活発に動き回っていた。

4月 7日 仔の体重測定・健康診断を実施。体重推移や健康状態に問題なし(獣医師確認)。仔、産箱から出た様子なし。アシリ、部屋に戻してすぐに仔を舐めていた。落ち着きあり。夕方プロイラーを箱内に運び入れ、仔の前で食していた。

4月 11日 仔の体重測定を実施(ミルル:5.7kg、アルル:5.65kg)。仔2頭、産箱より顔を出したりしていた。足取りもしつかりし、活発に箱内を動きまわる。

4月 12日 仔、箱より自力で出て、数十cm歩行。

4月 15日 仔の体重測定を実施(ミルル:6.2kg、アルル:5.93kg)。測定のため抱きかかえると、アルルがキーパーを威嚇。仔、足取りしつかりしている。

4月 16日 産室用に別のカメラ(産箱出入り口映像用)を設置する。夕方には全頭箱外で休んでいた。仔も自由に産箱から入り出ることを確認。アシリ、箱内でプロイラーを食す。夕方5時半、箱外で授乳。

4月 18日 仔の体重測定を実施(ミルル:6.35kg、アルル:6.2kg)。測定のため抱きかかえると威嚇あり。歯を確認(異常なし)。室内と通路を自由に行き来できるよう、朝より夕方まで解放状態にする。早々1頭が出てきて隅々まで動きまわり、臭いを嗅いでいた。自力で階段をスムーズに昇降し箱へ戻る。

4月23日 仔の体重測定を実施(ミルル:6.75kg、アルル:6.65kg)。

4月24日 仔、プロイラー食している(手羽先部分)。

4月26日 仔2頭、夕方にプロイラーを食していた?奥歯で噛み切ろうと、しっかり肉をくわえ左右に顔を動かしていた。

4月27日 仔の体重測定を実施。2頭ともに7.05kg。捕獲しようとすると2頭で威嚇し、力もかなり強い。爪での攻撃(?)もあり。部屋以外のスペースへ頻繁に出入りし、じゃれたりしながら活発に行動していた。授乳時以外はほとんど箱の外にいる。

5月 1日 仔の体重測定を実施(ミルル:7.4kg、アルル:7.6kg)。2頭ともに歯・爪がしつかりしており、四肢の力も強く、抱きかかえるとかなりの力で縛れる。

5月 5日 仔の体重測定を実施(ミルル:7.75kg、アルル:7.95kg)。歯・爪鋭く、抱きかかえると力強く暴れる。日中、通路と空きの部屋を行き来できるように。夕方はプロイラーを1頭につき1羽を給食。必死に食らいつき食している。

5月 9日 仔の体重測定を実施。2頭ともに8.35kg。夕方も一生懸命肉を食していた。

5月19日 仔2頭、1羽のプロイラーを2頭で取り合っていた。

5月20日 仔にトローパンの埋め込みと予防注射、体重測定を実施(ミルル:9.8kg、アルル:10.2kg)。※力が強くなり、危険防止のため最後の体重測定。

5月22日 親子を屋外展示場へ出す練習を行う(8:55~11:30)。展示場と室内を開放状態にする。アシリは警戒しながらも外へ出る。仔2頭は体半分くらいを外に出し、すぐに室内へ引っこ返してしまう。数回繰り返すも、風の音や草の動きに驚く。

5月26日 9時~11時まで親子の展示練習。仔2頭、少し警戒していたが数分後には完全に外へ出る。出入り口から半径1メートルの周囲を活発に動きまわり、草を齧つたり、竹に寄りかかつたり、階段を登つたりと、色々な行動あり。

5月28日 親子、朝より屋外展示練習。扉を開けて10分程は警戒して出ようとしたが、その後はブルーへ入ったり、お立ち台のスロープに登るなど活発に行動していた。特にアルルが元気よく、1頭だけでも遊んでいた。アシリも時々室内から出てきて仔の様子を見ていた。午後3時まで練習する。

5月30日 本日より、正式に一般公開として親子の展示を開始した。展示方法は前日同様に室内とのオープンで行った。仔は展示場全体を駆け回り、活発に行動していた。

\* アルルは、2009年6月18日、広島の安佐動物公園にお嫁入りしました。その時の様子は、6ページでご紹介しています。

## アルルの嫁入り

2009年、アルルが広島市安佐動物公園に嫁入りしました。

6月18日早朝に秋田を旅立つため、前日に麻酔をかけ、輸送用の箱に入れました。この時は血液検査も行いました。長旅になるので、点滴をして準備万端です。

※輸送箱は鉄製のとても丈夫なものです。



2009年6月18日、  
秋田を出発。  
気をつけてね~!!



フェリーに乗って、高  
速道路を通り、3日目  
にやっと広島の安佐  
動物公園に着きました。  
だんなんさんのバイ  
コフと仲良くね。

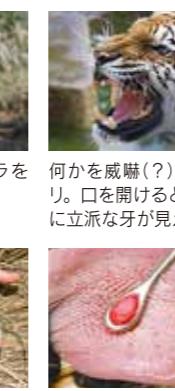
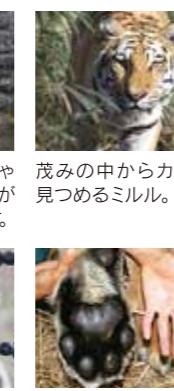
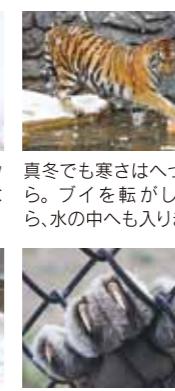
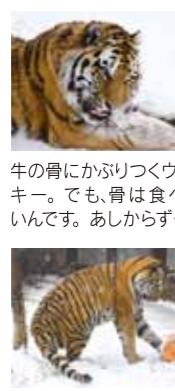
輸送箱に入っていた水入れが、  
アルルがかじって左の写真の  
ようになっちゃいました。

大東北  
森山では  
だけ

アム

トル

姿百態



まんまタイムでのウイ  
ックキー。爪で引っか  
け、鶏肉をゲット!

ブイを転がす姿は、ネコ  
そっくり!?

真冬でも寒さはへっちゃ  
ら。ブイを転がしながら、水の中へも入ります。

茂みの中からカメラを  
見つめるミルル。

何かを威嚇(?)するアシ  
リ。口を開けると、こんな  
に立派な牙が見えます。

アシリの舌です。ネコと  
同じで、ザラザラです。

アシリの舌です。ネコと  
同じで、ザラザラです。

まんまタイムでのアシ  
リ。馬肉めがけてネコ  
(トラ)パンチ!

## トラにまつわる 子育て物語



昔、大森山動物園に上手に子育てができない  
「ミドリ」という名前のメスのトラがいました。

1 「ミドリ」はお母さんトラ  
から愛情を受けずに、人の手  
で育ったトラでした。

そんな「ミドリ」が出産。や  
はり同じように、子には見向  
きもしませんでした。



2 生まれたトラの赤ちゃんをどうしようかと悩んで  
いたとき、動物園に来た迷い犬が仔を産みました。動  
物園では、「ミドリ」の子ども(名前は「ラン」)をその犬  
にあずけてみることにしました。

犬がそばにいて、やさしくたっぷりの愛情を「ラン」  
に注いでくれれば、きっと立派なトラに成長するに違  
いないと思ったからです。

「ラン」を犬のお母さんに預けると、犬のお母さんは  
我が子とわけてだなく、いつも触れ合って、たっぷり  
の愛情を注いで「ラン」を育してくれました。



3 「ラン」は、スクスク育ち  
ました。成長の早い「ラン」  
は、3ヶ月をすぎると、犬のお  
母さんを追い越すほどに成長  
し、犬のお母さんは悲鳴を  
あげるようになり、一緒にさせ  
ることができなくなりました。



4 その後、犬のお母さんと分けられ、大きく成長した「ラン」が大人になりました。結婚することになりました。

犬のお母さんにたっぷりの愛情をもらい育てても  
らった「ラン」は、今度は自分の子へ、  
犬のお母さんから  
もらった愛情を伝  
える番になったのです。

赤ちゃんを産んだ「ラン」は、自分の  
仔にお乳を飲ませ、  
立派に育てあげました。



ランが育てた子どもたち

成長したラン

ランが育てた子どもたち

# 動物園の再整備にあたつて



過去から将来に受け継ぐ大切なものの  
～100年も前からあった動物園の構想～

再整備担当 伊藤 博之

今年、秋田に動物園ができるから60年目の年を迎えます。昭和25年に「秋田県児童会館付属動物園」として発足したのは、市中心部の千秋公園(久保田城跡)内でした。その後、昭和28年4月には県から市に移管され、「秋田市児童動物園」と名称が変更されました。それでは、千秋公園に動物園を創ろうとしたのは、いつといつ、誰が考えたのでしょうか？

千秋公園は、長崎県大村市出身の長岡安平氏によることは広く知られています。十年ぐらい前になりますが、秋田県公文書館に長岡氏が手がけた際の図面が数枚保存されていることを、久保田城趾歴史案内ボランティアの会の方が発見しました。明治44年と記された図面に動物園と思われる表記があり、驚いたことを憶えています。

今年度、大森山公園の豊かな自然と調和し、一体となった魅力ある施設づくりに向け、有識者や市民の代表とともに意見を交わしながら、動物園の将来構想づくりを行いました。先月、ホームページ上でその資料を公表し、市民から意見を募集したところなので、ご覧いただいた方もいると思います。

将来構想づくりは、コンセプトと整備方針といった大きなフレームづくりが主な作業でしたが、千秋公園に考えられた当時の“それ”は何だったのでしょうか？

「児童動物園」という言葉が“それ”であり、昭和48年に自然豊かな大森山の地に計画



された“子どもの国(現大森山公園)”も“それ”を引き継いでいたものと思います。

現動物園の将来構想“大森山自然動物公園(仮称)”のコンセプトは、「自然と調和し、市民と共に成長し続ける公園づくり」であり、「自然」「観光」「教育」「環境」「協働」の5つを整備のキーワードにしています。

本市を一望できる大森山の豊かな自然と動物、そして市民をはじめ多くの人々の力で公園づくりをしようとするもので、これもまた“次世代を担う子どもたちのため”的なものであることに変わりありません。

大森山動物園では、引き続き大森山自然動物公園(仮称)の実現に向け、具体的な活動と計画づくりを進めます。



## 平成21年 ミルヴェあれこれ紹介

4/18

●大型遊具「アソヴェの森」がオープン  
オープン以来、お子様に大人気のアソヴェの森。すでに当園の人気施設になっています。

5/28  
~29

●日本動物園水族館協会総会を秋田で開催  
当園は総会をホスト。総会にご臨席された協会総裁の秋篠宮殿下が当園をご視察されました。

7/24  
~26

●写生大会を3日間開催  
21年で32回目を迎えた写生大会。初めて複数日に渡って開催しました。天気や都合をみながら参加することができたと好評で817名の方が参加しました。

7/29

●再整備策定委員会立ち上げ(P8参照)  
大森山動物園を再整備し、より魅力的にするために委員会を立ち上げました。今後時間をかけ、市民の皆さんのお意見を聞きながら、再整備を進めていきます。

10/17

●特別イベント  
「大森山動物園のヒツジの毛を使ってタペストリーを作ろう!」を開催(右記参照)

11/22

●「いい夫婦の日」イベントを開催(右記参照)

11/29

●通常開園期間の入園者数が30万人突破  
1991年以来、18年ぶりの30万人突破となりました。たくさんのご来園ありがとうございました!

Pick Up

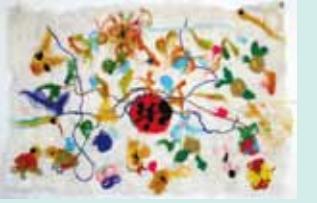
特別イベント  
「大森山動物園のヒツジの毛を使ってタペストリーを作ろう!」

10月17日に、染織家の三浦真理子先生を講師に迎えて開催しました。大森山動物園で飼育している羊の毛を有効利用。小学生から大人まで9名の方が参加しました。

フェルトの圧縮技能を使い、参加者全員で、好きな動物の絵柄などを作って、大きなタペストリーに仕上げました。自由な発想の、とても楽しい作品ができあがりました。このタペストリーは、園内のミルヴェ館に掲示しています。



作成中の様子



完成したタペストリー。  
幅は1メートルもあります

Pick Up

11月22日の「いい夫婦の日」にちなみ、たまにはご夫婦だけで動物園をお楽しみいただき、お二人で大人の時間を過ごしていただこうと、初めて開催したイベントです。動物園のスペシャルガイドツアー、スペシャル・ランチ(弁当)とワインのセット、動物との記念写真、園内にある遊園地アリババの観覧車利用券がセットになっており、22組のご夫婦が参加。いつもと違う、ご夫婦だけの特別な動物園に、皆さん楽しそうでした。



ガイドツアーの様子

動物病院  
から

獣医師 高橋 拓

Topic ウィツキー  
はじめての  
レントゲン体験

重い

麻酔後トラ舍  
から病院へ運ぶ

2009年11月30日夕方、アムールトラのウイツキーが、展示場で左の足を引きずっているとの無線が入りました。現場に到着すると、確かに左足を膝から上には上げようとしない様子が見られました。「もししかしたら脱臼しているのではないか?」と疑われたため、レントゲンを撮ることを決断しました。レントゲンを撮るといっても、みんなで押さえて撮るわけにもいきません。吹き矢で麻酔をかけ、完全に眠らせてから、病院のレントゲン室へ移動して撮ることにしました。

移動させるにも大変で、職員8人がかりです。体重はなんと163kg。病院に着くと今度は別の難題が。レントゲンの撮影台に乗せるには大きすぎ、かつ重すぎなのです。そのため下半身だけ乗せて撮影することになりました。結果は、脱臼は認められず、炎症による腫れや骨折もありませんでした。周りにいる全員一安心です。その日は鎮痛剤を打って寝室へ戻しました。その後、毎日薬を飲ませ、12月11日には正常な歩行に戻ることができました。

猛獸と呼ばれる動物は、麻酔無しでは治療できないことがあります。安全な麻酔管理で治療することが第一となり、細心の注意が必要です。しかし、麻酔をかけた時はいつも触れられない、見ることができないところまで見ることができます。おかげで、いつも新しい発見をさせてもらっています。

アムールトラの毛は意外と柔らかいですよ。



## 飼育レポート1

# ゾウ舎20年目のリフォーム

飼育展示担当 山上 昇

**A** フリカゾウのだいすけ(♂)と花子(♀)は、早いもので2頭とも推定20歳を過ぎ、体もずいぶん大きくなりました。平成2年9月30日に推定1歳で当園に仲間入りした当時は、2頭とも体重約400kgでした。20年後の現在、だいすけが約5トン、花子が約3.5トン(いずれも推定体重)に成長しました。体だけではなく、頭も賢くなり、いろいろな物に興味を持つたり、警戒心を強くしたりと、日々たくさんの変化があります。

今年、ゾウが暮らす獣舎の一部改修工事を行いました。飼育を開始してから今日に至るまで、直接飼育(※1)に適した獣舎の構造のまま、大きくなつたゾウを準間接飼育(※2)している現在、現状のまま飼育管理を行うには危険度が増し、限界を迎えていました。

そこで、ゾウによる人身事故を防ぎ、ゾウと担当者がより安全に、かつ双方の信頼関係を今まで以上に深めて飼

育管理を続けるために、ゾウ舎の寝部屋の格子幅を狭くするとともに、ゾウの体のケアを可能な限り出来るように寝部屋の一部をリフォームしたのです。

改修工事にともない、今後、ゾウを新たに飼育環境に慣らすとともに、飼育方法に関しても、一部新しい調教項目を加えながら日々の飼育管理をしていかなければなりません。また、ゾウだけでなく、担当者もゾウの飼育管理をもう一度勉強し合い、飼育技術の向上につなげ、今まで以上にゾウとの深い信頼関係を築きあわせられるよう努力したいと思います。

なお、ゾウを室内展示している場合、多少見えにくくなりましたが、こうしたことをご理解のうえ、ご覧いただけます。

(※1) 直接飼育…動物と飼育者が同じ空間に入れて飼育する方法。

(※2) 準間接飼育…動物と飼育者が同じ空間に入らないが、動物と接触が可能な状況で飼育する方法。



大きく成長した花子(左)とだいすけ

エサを食べる様子が見られると人気の「まんまタイム」の様子



子供の頃の花子(平成3年)



リフォーム前の寝部屋。格子間隔が広い状態



リフォーム後の寝部屋。格子を追加し、幅が狭くなりました

## 飼育レポート2

# 新人さん、いらっしゃ~い!

飼育展示担当 小松 泰子

**2** 009年12月4日、長崎バイオパークから新しい仲間がやってきました。マツ(♀)とサツキ(♀)という、まだまだ小さな2頭のカビバラです。当園には、うみ(♀)とレン(♂)しかいなかつたので、2頭が来たことで一気に賑やかになりました。

夕方に到着した2頭は、少し疲れた様子でしたが、輸送箱の扉を開けるとすぐに出てきました。寝室中を慎重に匂いをかぎながら歩き回っていたかと思うと、同じ仲間の匂いがすることに気づき、お互い柵越しに鼻を近づけました。カビバラの挨拶です。そして匂いを確認すると、そわそわと落ち着きがなくなりました。元々群れで生活する動物で、長崎でも一緒にいたので、出来れば早く一緒にさせ

てあげたかったのですが、カビバラは大きな前歯(門歯)という武器を持っています。その歯で一撃をくらつただけでもとても危険です。長旅のストレスや新しい環境の変化によって、通常では考えられない行動をとることもあるため、その日は2頭を分けておくことにしました。その後、日中の同居訓練ではサツキがマツの後ろを着いて歩く姿が見られました。2頭の様子を観察していると、どうやらサツキはマツの事を頼りにしているようです。今では夜間も同居させています。時々こっそり覗きに行くと、2頭で寄添って寝ている姿を見せてくれるほどです。

これから2頭がすくすくと成長して、いずれお母さんとなる日が今から楽しみです。



左がサツキ、右がマツ



仲良く「お尻りあい」



並んでエサを食べる二頭

飼育職員が日々記録している  
飼育日誌の一部を抜粋してご紹介します。

- | 類         | 種数           | 点数          |
|-----------|--------------|-------------|
| 哺乳類       | 52種類         | 272点        |
| 鳥類        | 44種類         | 165点        |
| は虫類       | 11種類         | 29点         |
| 両生類       | 2種類          | 8点          |
| 魚類        | 4種類          | 29点         |
| <b>合計</b> | <b>113種類</b> | <b>503点</b> |
- 12/7 ●ミーアキャット ナガミとサキ♀ 元気・食欲あり、便に異常なし。  
●カビバラ マツ♀とサツキ♀ 採食・排便良好。慣れてきた様子。本日より少しずつ同居訓練開始。11:00より1時間程同居。特に問題なし。  
12/11 ●アカコンゴウインコ ♂が♀の方にお尻を向けて、尾を振っていたが、♀はあまり関心を見せていなかった。  
12/23 ●ミニブタ トン平♂とトン吉♂ 元気・食欲旺盛。午後に30分程、獣舎内を散歩させる。トン吉はいたずらばかりしていた。  
12/27 ●ノドジロオマキザル 午後、生クルミを2個入れてみる。1個は床に落ち衝撃で割れた。中身を知ったせいか、残りのもう1個を壁等に打ちつけたり、擦つてみたり、両手の中で転がしてみたり、囁つたり色々試し、40分後にクルミに穴を開け中身を食べた。  
12/31 ●ミーアキャット ナガミとサキ♀ 風の音に警戒している。  
1/8 ●アメリカビーバー マリオ♂とナツ♀ お互いに毛繕いしていた。  
1/11 ●ゾウ 13:10まで放飼。放飼中は♂♀とも盛んに泥浴びしている。

## 飼育動物数

【平成22年1月末現在】



# かたばた通信



## 終了イベント紹介

### 長寿・功労動物 サンクスウィーク

9月20日から9月26日までは「動物愛護週間」。動物の愛護と、正しい飼育についての理解と関心を深めてもらうために定められたものです。

大森山動物園でもこの期間を「長寿・功労動物サンクスウィーク」と銘打ってさまざまなイベントを開催しました。長寿・功労動物の紹介や園長のスペシャルガイド、猛獣舎裏側体験などを開催しました。



21年4月に完成した大型遊具  
「アソヴェの森」も大人気



長寿動物として紹介される  
ムツアシガメの「ロビンソン」

9月  
19日～26日  
開催



園長のスペシャルガイド

### 秋の動物ふれあい フェスティバル

10月  
11日・12日  
開催

昨年も好評だった秋のイベントです。

普段は行わない特別イベントを開催。ポニーとの記念撮影、園内を回りながら問題を解いていくウォーククイズ、吹き矢体験(動物に対して、吹き矢を使って投薙する場合があるので、その体験です)、動物体重当てクイズなど、たくさんのイベントでお楽しみいただきました。



吹き矢体験の様子



ポニーと写真撮影



ウサギの体重当てゲーム。みんな真剣です



慰靈作文を朗読する浜田小学校児童

### さよなら感謝祭

11月29日  
開催



クイズ大会の様子。  
なにがみえるかな?



秋田東中学校合唱団による合唱

### 通常開園は 3/20からスタート!

平成22年の通常開園は、  
3月20日(土)からスタートです!  
11月30日まで休まず開園します。

●開園時間 9:00～16:30  
(入園は16:00まで)

●入園料 大人(高校生以上)/500円  
中学生以下無料  
年間パスポート/1,200円



### お知らせ

#### 〈平成22年のイベントスケジュール〉

通常開園開始日	3月20日(土)
春の動物ふれあいフェスティバル	6月6日(日)
写生大会(2日間)	7月24日(土)、25日(日)
サマースクール(2回)	7月30日(金)、8月2日(月)
夜の動物園(4日間)	8月14日(土)～17(火) 17:30～21:00 ※日中も開園
秋の動物ふれあいフェスティバル	10月10日(日)、11日(月)
さよなら感謝祭	11月28日(日)
通常開園終了日	11月30日(火)

